屠龍之技亦
輕舉道人善諧謔十七字
之詠。觸於目。感於心者皆
發之於言。其所發者皆
獨笑獨泣獨喜獨悲之
所成也。而不知人之閱之者
亦與我同笑耶泣耶喜
耶悲耶。惟言其所言。
發其所發而已。道人
嘗自謂曰。諧謔者。防於
唐詩。而和歌。效之。合十七
詠。蓋其餘流也。故不一
言不論雅俗。或雜之以土
語方言。鄙俚之辭。又好
門風之有流云。可言而
不言則腹彭亨。吾所
言者一。言之。發其可發

不文則腹誹焉。吾以
言文一致。發其可發
而已。道人の詩風流と
巨魁の共
一致を省。
文化九年壬申十月
江戸の鵬齋興

[illegible]
[illegible]
連翹の蕊少りしのかわり 鵬
を近の景一お様もあるを
三月 畫
常布し袷尋ねる多りの郎
悼未翁老夫
聽てんを耳なし岩吟者
[illegible]
[illegible]
無同制[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

無同判者　しるす河

小野まく撰ん坊か花の忘のな

蛸きおれいよしも松と杜宇

まる人は松のとよく月さしけ

居賊をまつさまさえる座頭かな

一株の蕗他まの縁さん大

碑たつるとて

筆塚の主は誰ぞ人が口

告さるゝ本縁身帽子年の罪

たまさのか雲路も梅のおとし

隣子居ん梅まと咲つ達摩

花街

松を皆人は植ゑる二月の雛

まそ松やいるかの雛の女ゆ字

春眠

たゝぬ松はぬ日まさはなまは日より夜の雨

米翁老君の三周忌

高宗の三年なさきゆしし桃李

杉山の花みれ都まの風

鐘く鐘く金鐵皆鳴

まつ杖や喫茶碗をふの時ぞ古

榎島辨才天法楽

名月は松のみえたるぬ家の庵の跡

背出子たれなのりまかなはの杏

神田明神祭礼

柿賣の逃りの手の積みのたし

[illegible]

神無月神祭れ

柿實の赤きもの稜のたち

上臈おとなしう歩み月日も秋

ゝ下もゝ雁ゝ小梅の柳ゝ面

みの笠を道の曙ゝ分

ゝ月日ゝ書ゝ有ゝ葉

鶯の花ゝ笠ゝ

聖徳ゝ中ゝ空ゝ月の中ゝ

先ゝ笠ゝ

修廓

煙ゝ影の嶺と代ゝ

素麺ゝ著ゝ組

きつゝ秋ゝ

聖流の一周ゝ

川風の行ゝ帰ゝ網ゝ

買乗ゝ信ゝ蓋の中

秋深

蛟の嶺ゝ初ゝ

紫式部の画ゝ

明月ゝ視のうみ

色竹黄

書ゝ

桜の陽新の画ゝ

うゝ義ゝ秋雨の尾

聖ゝ

腰八ゝ信ゝ山ゝ

うゝ山ゝ雨

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

五月

[illegible]
[illegible]

中秋無月

物干に芒を兩をかく[illegible]の罪
十六宵や去年の日記を雨のみ
[illegible]て知る[illegible]の愚[illegible]
[illegible]
[illegible]

いつ屋なりて時雨を松の音
[illegible]
寒の菊の葉や山川に底の智
[illegible]の罪

丙辰 春朝

竹藪をうつる[illegible]留[illegible]
[illegible]の[illegible]手[illegible]若菜摘
人の目に[illegible]雪間のわの[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]と正成と[illegible]

[illegible]郡[illegible]の中[illegible]うちの[illegible]附
[illegible]房と正成と[illegible]ひとく加南
三味線の名[illegible]を[illegible]蒔絵
花未開

笑まるて笑ぬ[illegible]中僧
汐干狩江戸の[illegible]の[illegible]
艸色遥看近却無

何[illegible]見へ[illegible]は青く[illegible]紫[illegible]
紫[illegible]の[illegible]なる[illegible]の[illegible]

徒者[illegible]の汁　石蓴のを[illegible]

うゑ[illegible]の[illegible]の[illegible]われ[illegible]
[illegible]の[illegible]宗威の[illegible]

画賛物句
青根侍の[illegible]

きて見て[illegible]のやう牡丹の[illegible]

堆の市の汁

十鳥高橋北巻改

うゑする山郭の繪馬[illegible]
[illegible]を走つ[illegible]たる青紙[illegible]
[illegible]汲て[illegible]なる　桔梗
[illegible]うもの[illegible]法[illegible]
魚物[illegible]毎を[illegible]れて[illegible]
四の時[illegible]居[illegible]時[illegible]居[illegible]桂つれ
山陰の吸筒[illegible]夕の[illegible]

未免[illegible]東社の神[illegible]師の[illegible]

未完之東社の神社所の
地名の名まれ所大和達
蒼鷹形峯をおれて江戸の色

夕立の静まる時分袋さし
緑樹影沈てく
仙茶を魚とかつて西の方蒼
秋既ちの つまつて嵐の
黒木の茶筅形新田家ひの
の付稲を摩風の時ふ湯形
寛政九年丁巳十月十八日
李廟寺文如上人来向
みちをちをちの茅屋
ちの所刺ちてく
遠くの山あの遠れ光寛形

月の形戸内小田切郡のまつ土百
明立沢まてく
三つ風まれ分られ沢の明
第根湯泉を福信内義の
もちをちをちてく
先光まてく名の出湯泉のまてく次第
沙羅 而
金精内朴の廣茶を羅手形
薩埵峠まてく

許まてく
富士嶽清の奥方寝て清れ

許まて

豊蟹清の溪をうつして

老僧の傳言

よりてなり

ナりの和小舟よりの

のり清水の漆をて

三稜の的邦を選

して絶景を筆

つくされを

いつをて若い貴なる家の丹

十二月中宵に都を

あくりて

調の名をて白河の桜庵に

ゆくを鶴の歩みに伴答興

戊午春興

うくひすを聞て丹を水のそ

清寛のあるを 煙るを見なるに

都山就寺 加賀の勢力用て石と

陰霞数をよく葛に柱茶うか

うつの若浦まく

あをのうを桜僧いまり十園子

汐見をる新世をよりて

所をまなる漁の地を柱杉の色

十二月十日京着

本屋所まく

布園をて寺て見る山内京山

西陣町にて

祇園まで続て見る山や東山

清水寺にて

来詣や梅も溢れはるの京

戸無瀬の雪を

山の名をあらしに六の花見哉

常住野寺にて眺れて

名山草花ちらしや露の数

清滝川にて

水鳥も流るゝ浪や橋の雲

江尻の驛にて尾に臥つゝの

げにめでたきの都の一瞥

きわまりし横嶺わに雲横たふ

離れ行く鶴の時の日の出哉

京陽山

晨来又おもふての人なるとる手

業首

一夕の日行千里必もれ

辛酉春興

春俳諧師のめでたく起り

麻のうへにこれその気口を

しら新

貞徳に先の宗鑑開のへしかし

摂名山京清

誰にうき具足をも捨へ名山同者

障無同

[illegible]捨て[illegible]山同者
悼無同
初吉は鼻[illegible]を保[illegible]ゆるあり
[illegible]月中八殺の[illegible]の[illegible]鳴のうち
[illegible]の宿碁経[illegible]の罪

金弐

佛力[illegible]の[illegible]の一聖紙
門貫上人の
[illegible]宜を[illegible]
伊豆[illegible]の[illegible]あるを[illegible]の罪

雪笠[illegible]なるを
一帖の[illegible]の[illegible]の富士
井の[illegible]を[illegible]を門[illegible]
水[illegible]自制[illegible]のみね
永代橋の[illegible]
銀軸をあくるを
[illegible]那[illegible]

[illegible]の[illegible]の底なる[illegible]
[illegible]の汁れ[illegible]呼[illegible]
良和飄風驟雨
[illegible]の月を[illegible]
[illegible]代[illegible]の菊

良和飄風驟雨

霽て雨和の月を望む

霧吸て雲ひく代猶ん渓の菊

赤白の一周忌

ひとかたわ廻りて屋たの所

月の貴うる屋の雪をうとうる

年尾

とりの和方屋火ゆる犬の負

柚木屋の業の梅のまれ所

うつみ寺四月

百年のうく赤て赤て十三年

駒宮の墨をとり

雪ふ雪ふるまを合るあ年所

・貴梅石川侯に切て

新まるふ赤てまて

冥菊

虎の栖む山て雲むうと出蕉

卯春興

野のてく水ちうてく毒の邪

雉田の梅月

まるのわて

茅業迄居為て待川田書所

ちつ生而しる斗を楊豆腐

芹摘て知て孫ちて表る五

文化丁卯春曲流の宗義

きつねもしらす斗を楊豆腐
芹摘に出て孫をまて老ぬる哉
文化丁卯春当流の宗義
積年の惑乱悉く
所裁断ありて二月十八日
築地御坊にて免され帰宗
三千年玉の江東寺香の薮
交ありて
東都上人の御徳世に流れ
あふれ謙するなと
いくたひも此時なし
うれしさは法堂の鼓静し
垂跡の浮世に
経律の説相の綱の也
漢土揚子江
日本隅田川
菜の花の影をうつし出る
甲子の大黒天を画て
月花にいそうらおさん小松より
元木の弥陀は清るとて
法影供の図に花を添る白不騒
卯月のはしめ
珠数ひんの一心に垣根のみか
よひの夢若き山やおもひ出
蔵さきの花を見る閑の梅
宅似草
袖よりも廓の垣根や早もの花

色紙歌

神ろろ廊の屋根や昇の外
年暮れ川越えん雪
播川院の時すそ
空模様ふまそ降うつ紀

笠脱ぐ和歌の浦の秋色
馬市の信濃屋の柿の色
ろの飛ぶもれい月の高ぶ
啄木鳥の門や谷の彦
つ引けい遥ぶ一つ山
秋雨や竹の庵の秋みの
数の残ぶつ月の月

この頃は出雲の
星の残る紅葉の
生駒や紅屋の柿の美濃帯
時雨や神の戸屋の外
あ夕ひ南ぶそれ秋の美

中秋

雁山船や時雨寒る鞍膝
ろのしや時の歩行棹岡の外

河豚喰ふ日ろうろんの罪

青楼

什年ぶ狐蒲団紙つ
絵一るうまや
拾ふ歩柿の鼻毛抜
金ものの多寄壹や柿の紋

[illegible]の鼻を[illegible]
[illegible]

遠望

[illegible]川筋柄杓
[illegible]
[illegible]の栗花
[illegible]
[illegible]牡丹[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]時[illegible]

達摩の讃

[illegible]

遠御[illegible]
紫陽[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]舟[illegible]人[illegible]

空懸明月待君五

[illegible]

空懸明月待君至
[illegible]物[illegible]
[illegible]
演[illegible]
[illegible]

七里濱
浪[illegible]馬[illegible]秋
[illegible]

緑紅
[illegible]

出山青[illegible]

伐木丁丁
山[illegible]
[illegible]秋の雨
[illegible]
[illegible]

木槲の黄葉[illegible]
修廊
君平[illegible]
再[illegible]

君平の宮あるまゝ大阪日
再び謡う
のゝ宮たちのたけたの雪の浦
餅の花の昔なるの花宮陽子
八橋のなるのゝ雪のゝ雪屋
り年の梅の咲る金ゝのかゝ
江を渡て恵方の糸の梅
ゆるされつゝて梅花
花ア梅ゝ丹の赤の花の陳
春宮を祭る春の春家の花
部ゝ乳ゝ乳野の四ゝ花の雨
初生の犬ゝ嗅れかゝ逐向
花孫尊の姫ゝ紅梅
先ゝ色ゝ色の色の様ゝ春

殘雪の歌てゝり丹ゝてゝら
上己
仏像のゝ如の様ゝ腰
海山木を小帳のゝ様ゝ
影の花吸ひ春の花
多田菜陳法樂
星の月の花ゝ花の雪
皂角の皆子ゝ春れて春の雨

牡丹一種春の角
さゝて送る時
仲光の討ゝ糸しやんの
素問の小伝ゝ花の角
ゝゝゝ花ゝ春の外

仲光の討ちく糸しやんこのな
妻門よりの小使はるものいわ角
ちくまちまちいるの松は陳ふ外
人を出るの鉢のかるも松宣量

悼嘉魚

膝抱て誰人ぞ海のそなる
山茨や卯の花をそ垣根より

五月雨や山ちまち法語魚

本堅う湖水

名所をそ

曽我の百姓六代ゆ
山椒の実れ口ふくしるもの
湯泉ふ人は時や涼量

秋をたちもしの名の秋
静のけ子時しの秋井

春興

鄙住の初しの婚うち紀
うしまちまち迷ふ多ゆ垣の梅
初年や二の親子ゆ黒羽ゆ
二月二十日青蘭坊ら
夜の菅廟まそ
人ちる
一歩をつ中よ樋んうるもん

鄙人も伝結ある人ゆそ小
島うらのくんあるも老量を

七巳四月江の島弁才天

[illegible]を伝ふる人[illegible]
[illegible]のくんあるを[illegible]を

己巳四月江の[illegible]舟を

三社熱田[illegible]ある時

[illegible]廉ひらくも[illegible]

八[illegible]

[illegible]の橋場を渡れ量遠

[illegible]

元日の[illegible]

[illegible]村の[illegible]

節季[illegible]百[illegible]のなな

元日の[illegible]孫[illegible]も小田の[illegible]

[illegible]視[illegible]れい筆[illegible]

山[illegible]の梅[illegible]実し 活大根

[illegible]梅を[illegible]れる[illegible]

梅を[illegible]春の雨

桃洞[illegible]

[illegible]綱[illegible]の駒

[illegible]いつ[illegible]

[illegible]

京[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の大和[illegible]の[illegible]

[illegible]百[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

讀仙經

[illegible]

小田原[illegible]

人麿忌

[illegible]

文墨[illegible]

[illegible]

[illegible]

仏生會

[illegible]

[illegible]

竹醉日

[illegible]

[illegible]

山椒子[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石蕗の日蔭をさし猫の鼻

粧ひは崩れ次第や冬の川

葉斎

塩魚や正月ちかき見なし奈

いさゝら拾ひし捨んとしの浦

青樓草市

市なくてたのもしらねるやさとの

竹葉香やてる杜の漆紅

花川萌や蒼井うのにおひ紀

晴る山の嫁女男人川和れ藤

良能

名月や河に似たる鍋の蓋

炮烙に目ハ暮そめて枝は雨

麓浪に追ひて刈まるまくかけ

鮒魚鍋や蒼海東れ思ふ人宴

こゝ宿となり渚に来るや杉の雪

山の葉は曙や二里は四乃中

又 きりきり赤きは木曽の宮居の森

みの浦や晴れいさぎよし 又

帰去来

帰なまし居酒つきぬ菊作姓

解よ舟の檣を境やうめの華

これハ宮城野梅のよしれ山

之巳

居ハ根花の洞ありて桃のさくら

まさしうまての記

見に出よて

[illegible]

あさくさの記
ふくろふにて
達ありやいふ張良が鞋をさゝら
蜘の囲に掛くつれ荷ふ小蝶

苗売りは初年の町も物ほしきなれ
圓覚寺にまうでて
鐘涼し世はみな人の汗の末
権田坂にてまうでて
霧くしおまそ根蔓勝く山鳩かな
維摩経をよみて
解脱して魔界芥子の花

しぐれ立変
客船の入日隠して時雨かな
余のにはきし時雨空暮れ松
ゆうくれ日本堤の夜桜に

元日
こゝろより春は来けり元日の鶴
餅花や柳さくらをつまむ
歳暮
大名の鶴鶴は似つかはしかれ
きぬくの替手まのあめの鶴

綿やくうつ売りよるねをりみゐ月
昼方は園子かくつをしつつ
名月やくらふ鬼の人通り
印西の下まちうつくし風
貝の難なく椎子似ても盗
壁の年や初茸売りの声の精
重陽

[illegible]の[illegible]
[illegible]年も初春書の表の[illegible]

雲陽

太刀縣主菊[illegible]床

見者し人[illegible]作めまく[illegible]

[illegible]の野[illegible]を[illegible]の神[illegible]

見[illegible]時雨の松[illegible]紙

[illegible]俊成卿の[illegible]

[illegible]云[illegible]相火楠

河人の初[illegible]場の

保[illegible]寺[illegible]

[illegible]時雨[illegible]

仙人の碁[illegible]

望白馬津

市人[illegible]

[illegible]

[illegible]

丁巳春興

[illegible]

菖蒲の[illegible]帳

[illegible]梅[illegible]

[illegible]園[illegible]船

[illegible]雨[illegible]賽[illegible]梅と[illegible]

[illegible]桃の[illegible]梅[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]雨[illegible]ものを賽[illegible]梅之梅
火[illegible]ひは[illegible]の売[illegible]梅[illegible]益
生代の居[illegible]一束樵一の罪
数[illegible][illegible]
ちり積て山樵の荷[illegible]一束
[illegible]雨[illegible]墨絵の[illegible]

御走馬以来異

[illegible]

更衣

[illegible]の廊人形[illegible]拾の形
[illegible]の[illegible]
樹作[illegible]の[illegible]

[illegible]山の火[illegible]懸の紙幅の[illegible]
板[illegible]
[illegible]

[illegible]秋[illegible]

[illegible]

良[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]秋[illegible]
[illegible]

泰室設茶春来

[illegible]
[illegible]除[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の御[illegible]
刈除[illegible]
行實[illegible]
[illegible]月や暴[illegible]

晩墨改名朝四

いろ[illegible]の中[illegible]

千[illegible]の[illegible]
[illegible]雨のう[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]山の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

存義先師十七回忌

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一年好京須君記

[illegible]切[illegible]南天[illegible]
[illegible]

一年 好奈須君記

江坂町南天あり うめ白し

百両と書きたる事の哀 まとう

胡麻節を水濁の梅につかひ

きるるもの うるる鬼 綱の手

ゑ 猫 怖 遠 鼠 の 鞠 を 奪 逃

人 新 月 月 な わ ゆ く 夕 桜

三月 雪

ゆくるを小指の曲 つ 奏

老驥伏櫪而志在千里

烈士暮年而壮心不止

雪 蓋 ば 四 ち と き く 氷 霧 ふ

蛙 許 の 桜 煙 草 ち 十 三 歩

酔の杖 猫 も 出 ち 春 雨

庚申 春詞

汐 撥 柳 の 沖 の の ち 海 り

讀 拙 朴 子

首 近 て 雪 を 春 の 岸 の つ る

あ り て 二 五 の 筆 に 於 て

杯 を 画 る 皆 い 梅 や 金 紗 子

き る る も ち 代 な り ぬ 井 の

新 妻 る ち れ の 賛

春 な る 雨 業 さ ぬ 首 筆

酔 の 帰 出

稲妻ある松の額

ちなみて業さしたる首筆

涼の暑さし

うさとしらぬ涼み舟や柿木

かつ傘に柳をかるいなりけり

錢湯も浅香の沼ね六月のな

蚊にやかを挿くあつまりか菊

物にも涼しのさなも署かな

とれ橋る蝉の羽衣あつさかな

法稲して包む袴のれ

立秋

先つ葉秋手探るうちに出来

七夕

空に行しむすびのみつ機の貝

人みる暴風の中をあふ延

いふつもり君と昼との田一枚

指人にかしてらうまるる寿郎

尾笠に立傘に蕎作り萩

柳島花の色にかと二本休そとし

鶴の子剥おきて赤なく稍の秋

露葉紅梢二月花　しれ

よころなる人ら車の酔さまし

草花

ちよと鳴あとしえる外の庭花

讀王充論衡

[illegible]

[illegible]

ちよと呼ぶ者ありて[illegible]

讀五元論衡

わの草に[illegible]の論ずる所なる

初子は[illegible]

[illegible]

松竹本に引けば菓の茎加減

ひろの柳うらに[illegible]

是歳文化丙寅春

[illegible]百年忌

たるまゝ肖像有帳を

書すれば一向を影て

[illegible]

又遊行の一向をふまゝ

嘶れば魔佛一如和尚を

四の〻四よ降ゆく雨の墨の影

護国寺の門〻木屋金陽山藤

部草に修火たる和泉川

就の栖むを本末なる柏餅

さもりおれる葵の葉の[illegible]子

初懺を祝ひく

糖を餌よ初よりなる吹あの

ちよと雛さゝる門を敲くを

江園八十賀より

突るを神和切る此慕

賢藥の墨の扇の墨の影

巨園八十賀より
突ゐる七神社切る四藜
黄蘗の雲の扇の星の影

うゝ筆を海をいきの時雨
遠方鳥の杉の葉の紅葉
遠山は赤堂宮あり春雨
鷹犬の縄の引き枯野のな
時雨は鹿海を笑へることる
枯葉ふゆく蕎麦の小川の牛の絵馬
ゆみ重の男は鹿をられぬ
瀬つゝ鳥の喰や沖まき
鞆のひゝ三重の川

篠屋

いやゝ行野なとも雲の後硯
伺連ふいの併さゝ高川庭竈

春興

見て笑へ花菜は蕗の下蔵
師遠の芦をひゝ鳥ゝの杉
墨子悲緑
ゆめ雲人の名いゝきら
浪笑て花ゝふゝ出茶屋のな
の母持ゐ撞樓みけり夕ゝ
瑠璃寺をゆきる
ゆきゝのいゝはよ撞ちめを
小ゝ懶の山の井君へゝきまき
ゝ三丁先をゆく帳鳥の浪

小石幡の山の井思へかうとまれ
ぬ三丁先をゆく幡町の宿
山をこゆ　源すゐ右衛門　夢
初茸や四五人物乞まうでく
屠買ひの呼れて出門神谷
海山と名れし立る角力の郷
社前にそれも傳る飛蜻蛉　鳩
東海道舎まりて
地蔵尊の傳の情れ天竺花
きつ屋の屋きつの園を夏屋
和泉別当者移義
隠家を同じ生るもの植根の郷
名月や洋まんまれぬ獣あり
谷川ちゝ屋ちゝ絵ちゝ
植うれ屋屋の風の萩を寺
いまちゝ傳ちゝ傳ちゝを何ちゝ
橋手立信牙まうわけ
彫垂の方あり汁れい
この絵尊もまとまんぬ名れ論
音書る菊ち遷ち方月

山茶花や根岸尋る草みち　宮
しゝを龍の相彫尊の海
きあ行ちゝ雀ち袖屋巾
神谷川ち振舞て
さまくの名ち屋ち吟和の郷
和田海ち屋ち郷ち名ふふ

神谷川より梅園へ
さまくの白梅多き中に紅の梅
和田海に流れんとする所
業業
我ゆくまに松屋嶺なる馬ひとつ 儀
市人のこぬかに沖の出し舟

七夕

つくづくと夕ぶくの時雨の雨
星合て晩行星を数ふ沼
十三夜

熟炉をまもる梅の月影
庫貸子如月猶なほ九月懸
雅別格

四ひとつの梅の香業 地蔵堂

河川のほとりなる梅ふるる
春興
夕暮解くる氷の梅
鶯の来て百度二日灸
三月雨なり 晴月
十七日雨ふる

刈らてくる山雪行つ中の薪
雪道の宿袋に白き川向
人の家に梅ふるひ初川の梅
千海苔の山海苔見て家
紅ふる中の自生の梅
梅見くに白梅見てのまこと
芹雪れてさこう紅梅の梅
初燕ふるとなる袖袂

[illegible]

芹売れてさらし沢辺の梅かな

初燕くるまよりかけ袖袂

江戸節一曲をきゝて

紫陽花や田の字たてし濡れける

引とまれなり有馬の火見番

手燭にて螢のあかりに杜宇

窮んとも蓑は棹の布團は草取

住吉をまうでの

画の讃に

ありけり明きとやりけれ風きららがら

血一つ蝦蟇の中に水酒ます

百舌鳴れ庭のありし稲かつき

こりねの大晦

字くに了ね明さとかうし腰尾

すゝ筆なをれのかたらを松外

坂山の戸奈瀬まつるかなきん

うめの花の窓の上に蝶ぬ周防さま

かあり花や野一ッの舟に新かな

ゆかりに梅の障子の新なり

芹咲て翼の翅ま小野の郡

雛よりもたゞ一人れひかふかな

茄ひて木鞋に鳥を蔽ひ計り

仙廓

雉さくらの宿桃灯の鼻に於いて

芦に見ゆの霧もたしておき慈

[illegible]

伏廓

ねふたさや宮挑灯の鼻の穴

節に音の雪をたゝくや音遠し

讃戯畫

鶯の才なしさのきて万才きどん

のつゝく焼く松のけふりや春の雨

花ひらの山を動きさゆらの邪

生かけの幟見すれは梅の兄ゝし

壬申

春興

梅さくの菜漬よしくや庭の春

うくひすの香をはしたの花折柴

み梅やそ郭公来ぬ白をかめ

人日

ふるとしれ物に信は年ね説菜哉

うくひすもちと春を出てすつくらし

むつ月十七日梅見て

あそひて

嵐ふる猫や捕る麿

こなされ甘みのあり さゆなれ

筆乱し帽師をなすなり汁季

宇治の里もえの時

いかに春やこ病をしてる寺も猶

菜月十五夜

空洞ありて

十六夜けいに樋子の笑まとの廓の月

名月を借す所に雨さゝし

居澤さて

人知らてうきたれ花の嵐のな

[illegible]

[illegible]

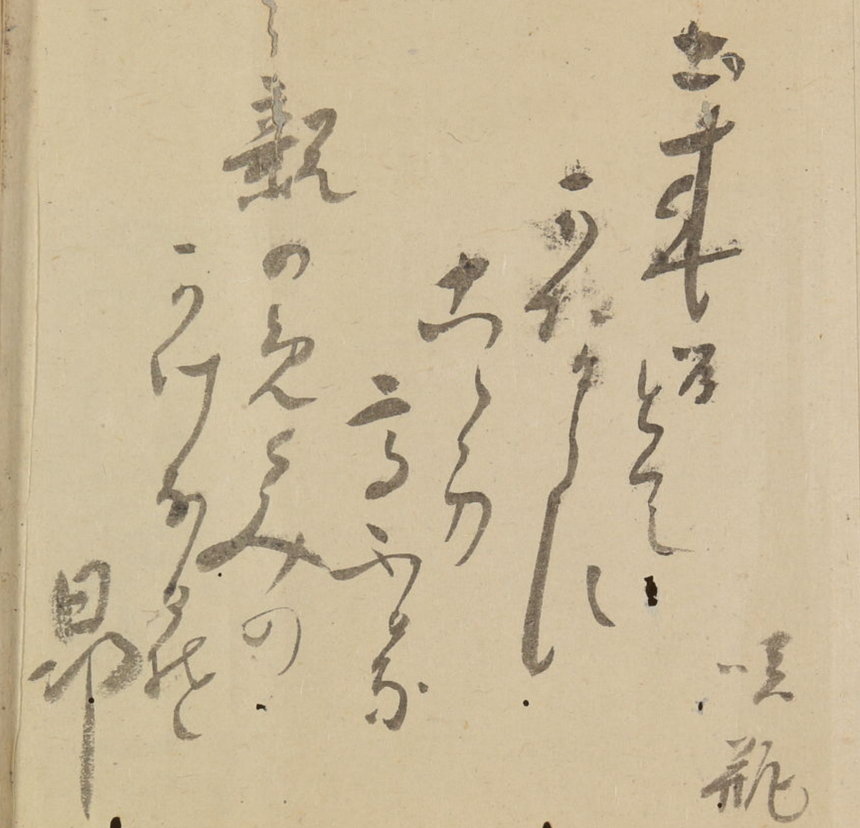
跋

覃識抱一隱君蓋三十[illegible]余年。但其之操。終始如一。性好詼諧。善圖画。覃雖不知詼諧者。觀其画。日進。而又如諸語之韵。響中宮商矣。古云。詩有聲画。聲詩。隱其[illegible]。[illegible]以有聲發者。[illegible]不送。亦何自在也。宜乎辭朱門而處白屋。含熏灼而就栄曠也。屠龍之技。可以消日矣。若夫庖丁[illegible]刀。目無全牛。陳平[illegible]肉。宰割天下。果何益矣。龍子[illegible]居而獲珠。如覃倘更。希其鱗爪。亦不可得已。

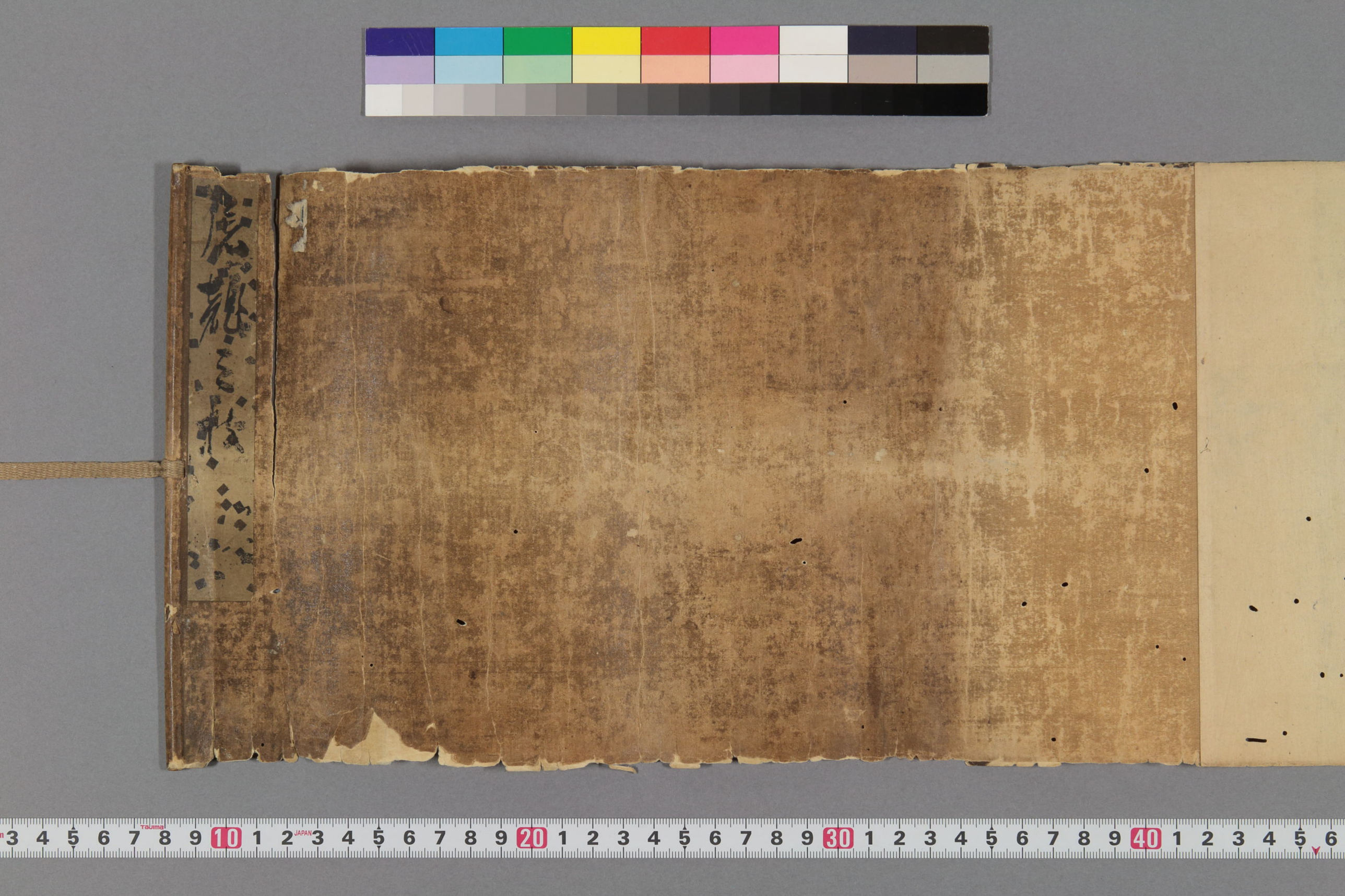
刀。目無全牛。陳平ヶ肉。宰割天下。果何益矣。龍子曰。居而獲珠。必覃倘更。希其鱗爪。亦不可得已。

文化癸酉清明後日南畝覃

圭ヶ溺林檎中



石川界一
所邦

屠龍之技序

歷代雜書